

■平岡瑤子 杉山寧の娘で三島由紀夫の妻。三島死後の数々の関連書籍の出版停止・回収・絶版騒動でよく知られる。

ひらおかようこ

日中戦争始 1937＝ 日本画杉山寧・元子の長女に生まれる。

日米開戦 1941＝ 4歳：

幼時より能に親しんで育つ。

敗戦 1945＝ 8歳：

新憲法公布 1946＝ 9歳：

独立回復 1951＝14歳：

55年体制始 1955＝18歳：

インスタントメン 1958＝21歳： 日本女子大学英文科在学中，川端康成媒酌人として，作家三島由紀夫と見合い結婚し，中退。

美智子妃 1959＝22歳： 長女紀子を出産，

安保闘争 1960＝23歳： スポーツカーレースへの参加を希望したものの，三島の許可が得られず断念。

全国総合計画1962＝25歳： 長男威一郎を出産。

東京リビック 1964＝27歳：

表向き三島と仲睦まじく，数度にわたる三島の世界一周旅行に随行し，自宅でパーティを開くのが好きな三島に調子を合わせて西洋風の女主人の役を務めるなど，家庭面で三島を支えるが，嫉妬の対象は男女を問わず，三島の仕事仲間の女優や過去の交友にまで及んでいたという。

いざなぎ景気1966＝29歳： この年三島が映画「憂国」を自主製作。

大阪万博 1970＝33歳： セギュール夫人のLes petites filles modelesを，松原文子と共訳し，「ちっちゃな淑女たち」の題名で，序文および訳文監修を三島として，小学館から刊行するが，三島が「楯の会」率いて自衛隊に乱入するも，思いを果たせず，割腹して自刃。

ドルショック 1971＝34歳： 「憂国」を忌避し，要請して，上映用フィルムはすべて焼却処分するが，共同製作者藤井浩明の'要望で，ネガフィルムだけは自宅に密かに保存。杉山家縁のある神道禊大教会で行われた「楯の会」解散式に出席，自らも神道に造詣が深かったという。*三島瑤子名義で夫の遺作「天人五衰」のカバー画を描き，*「定本三島由紀夫書誌」を完成するなど，三島の蔵書や遺稿の保存整理に心を砕き，

日中国交回復1972＝35歳：

石油ショック1973＝36歳：

三島邸を夫の在世当時のままの状態で維持することにも努力したが，息苦しさから逃れるため，小さなマンションを求め，染付けの絵を描いたり，金属ビーズのハンドバッグを織ったりして心を紛らせた。

角栄金脈辞任1974＝37歳： 「週刊朝日」の紀平梯子の連載手記「三島由紀夫の手紙」に対して，抗議し，連載を中止に追い込み，

田中角栄逮捕1976＝39歳： 舅平岡梓が死去すると，姑の倭文重に対して，敷地内の和風屋敷から立ち退くことを強く求める。三島の小説「午後の曳航」を映画化したルイス・ジョン・カルリーノ監督「The Sailor who fell from grace with the sea」の試写会に出席，完成記念パーティーでは日本語と英語で挨拶。_ジョン・ネイスン「三島由紀夫―ある評伝」の日本語版の版元の新潮社に猛抗議，同書を全国の書店から回収させる。

JALハイジャック 1977＝40歳： 元「楯の会」メンバーも加わった経団連襲撃事件に際しては，犯人説得にあたる。

1981＝44歳： 倭文重が，次男千之（三島の弟）の力添で，老人ホームへ入居するや，倭文重の住んでいた家を取り壊し，マスコミに取り上げられると，公表を差し控えるように依頼。

中曽根内閣 1982＝45歳：

1984＝47歳：

「フライデー」創刊号が三島の生首写真を掲載すると，版元の講談社に抗議し，店頭から回収させた上，写真の出所について警視庁に調査を要請。

ジャンボ機墜落1985＝48歳： {諸君!}掲載の伊達宗克・徳岡孝夫によるインタビュー「三島家十四年の歳月」で，三島との生活や割腹事件後のマスコミへの対応を語る。*三島の学習院時代の親友三谷信が「級友 三島由紀夫」を笠間書院から刊行すると，三島の私信の無断引用に抗議し，同書の回収を要求し，絶版に追い込むなど，三島の名誉や著作権の保護に，強硬にも見える対応をし続けて，

リクルート事件 1988＝51歳： 長男の威一郎と共に，銀座に宝飾店{アウローラ}を開店したが，

ソ連崩壊 1991＝54歳：

55年体制終 1993＝56歳：

サリン事件 1995＝58歳： 東京都大田区南馬込の自邸で，急性心不全により_没した。